令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった
課題と学力向上に向けた取組

教科	算数

品川区立京陽小学校

【学校全体の結果】
・目標値と比較して上回っているのは第2学年、第4学年～第6学年、同程度なのは第3学年である。
・概ね、どの学年も基礎・活用及び観点別の正答率において、目標値を上回っている。
・第5・6学年は、領域「単位量あたりの大きさなど」の数量関係の問題において、正答率がやや低い傾向がみられた。
・第2学年～第4学年にかけて、領域「数と計算」において、正答率がやや低い傾向である。

【第6学年】

1 概要		全体の正答率は、目標値を大幅に上回っている。 基礎・活用、領域別正答率のどの項目も目標値を上回っている。
2 課題と取組	①課題	「比例・単位量あたりの大きさ」の問題では、目標値を上回っているものの、他の問題に比べると、正答率が低い。
	②原因	比例や単位量あたり大きさの意味は理解しているものの、文章から数量の関係を正しく読み取って内容を判断する力に課題がある。
	③方策	図や表を活用して、数量の関係を整理する活動や、日常場面を取り入れた問題に継続的に取り組ませる。

【第5学年】

1 概要		全体の正答率は、目標値を大きく上回っている。 基礎、活用など観点別の正答率も、それぞれ目標値を上回っている。
2 課題と取組	①課題	・「面積」の問題では、身近にあるもののおよその面積を推測する問題の正答率が、目標値を大きく下回っている。 ・「いろいろな形」の問題では、平行四辺形の作図の正答率が、目標値を大きく下回っている。
	②原因	・単位の理解はできているものの、数値から実際の大きさが想像することや、仮の数値で実際に計算して確かめることができていない。 ・無回答は少ないが、作図の精度が低い児童が多い。
	③方策	・身近なものの面積を実際に測る活動をする。また、想定で計算したり予測したりする習慣を、日頃の問題から身に付けさせる。 ・作図の習熟させるための時間を十分に確保する。

【第4学年】

1 概要		全体の正答率は、目標値を大きく上回っている。 基礎、活用など観点別の正答率も、それぞれ目標値を上回っている。
2 課題と取組	①課題	「たし算・ひき算」の、繰り上がりのたし算やひき算のどちらも目標値を下回っている。
	②原因	筆算を書き表し、順序立てて計算を丁寧に行うことができていない。頭の中でのみ計算し、答えを求めている児童もいる。
	③方策	・たし算や引き算でも、筆算を丁寧に行うよう指導する。 ・やり方を忘れることがないよう、繰り返し取り組み、習熟を深める時間を確保する。

【第3学年】

1 概要		全体の正答率は、目標値を上回っている。 基礎は目標値を上回っているが、活用ではやや下回った。
2 課題と取組	①課題	活用問題での正答が低い。 単純な計算での理解はできているものの、自分で考える問題が苦手である。
	②原因	正答率が低い問題を見ると、問題の意味（問われている内容）が理解ができていないことが考えられる。
	③方策	活用問題を多く解くことで、自分で考え正答を出す力を育成する。 文章問題で問われている意味の理解ができるように、授業中に教師が解説する時間を取り入れる。

【第2学年】

1 概要		全体の正答率は目標値を上回っている。 基礎・活用、領域別正答率のどの項目も目標値を上回っている。
2 課題と取組	①課題	「たしざん」の問題では、文章を正しく表している図を選択する問題において、学年の平均正答率がやや低い。
	②原因	・問題文を正しく読み取ることができていない。 ・言葉と図を正しく関係付けることができていない。
	③方策	言葉、数、式、図、表、グラフなどを関係付けて説明したり、言葉での説明を図や式など別の表し方にしたりする活動を取り入れるようにする。